

(仮称)

富山市スマートシティ推進ビジョン

「中間報告」

令和4年3月28日

TOYAMA CITY

0.「中間報告」について

(仮称)富山市スマートシティ推進ビジョン「中間報告」とは

富山市は、令和4年度に「(仮称)富山市スマートシティ推進ビジョン」(以下、「ビジョン」)の策定を予定しています。この「中間報告」は、これまでのプロセスの中で検討してきた内容を取りまとめ、市民・企業・団体の皆さんと共有するものです。

今後、行政だけでなく、あらゆる主体が「自分ごと」として参加することによってはじめて、豊かな暮らしを形づくる「富山市版スマートシティ」が実現するという考えのもと、多様な方々のご意見をいただきながら、みんなが共感し共有できるビジョンづくりを目指していきます。

目次

1. ビジョンの概要
2. ビジョンの策定体制
3. スマートシティを取り巻く状況
4. これまでの富山市の主な取組
5. ビジョン検討プロセス
6. 富山市版スマートシティのコンセプト
7. スマートシティ推進のために共有したい基本的なこと
8. 来年度検討事項
9. スケジュール

1. ビジョンの概要

(1)(仮称)富山市スマートシティ推進ビジョンとは

行政だけでなく、市民や企業・団体などを含めた多様な主体が、新技術やデータの活用によって、より豊かな暮らしを実現する「**富山市版スマートシティ**」を推進するための共通の指針となるものです。

(2)ビジョンの位置づけ

市の最上位計画である総合計画との整合を図りつつ、スマートシティ推進の観点から、すべての個別部門計画に対する総合的な指針となるものです。

(3)ビジョンの想定する期間

ビジョンで示す将来像は概ね10年後(令和14年／2032年頃)を想定しています。

1. ビジョンの概要

(4)策定の背景

富山市では、本格的な人口減少や少子・超高齢社会の到来を見据え、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」に取り組んできました。

この取組により、まちの賑わいや税収などの様々な面で政策の効果が表れてきていますが、中山間地域をはじめとする郊外部においては、その成果が十分に実感できないという声もあります。

こうした課題を解決するため、富山市は、近年目覚ましい発展を遂げるデジタル技術や各種データの活用によってコンパクトシティ政策を“深化”させ、その果実を市域全体に行きわたらせることで、それぞれの地域特性を生かしながら市民一人ひとりの豊かな生活の実現を図る「富山市版スマートシティ」を推進することとしています。

2. ビジョンの策定体制

①富山市スマートシティ推進本部

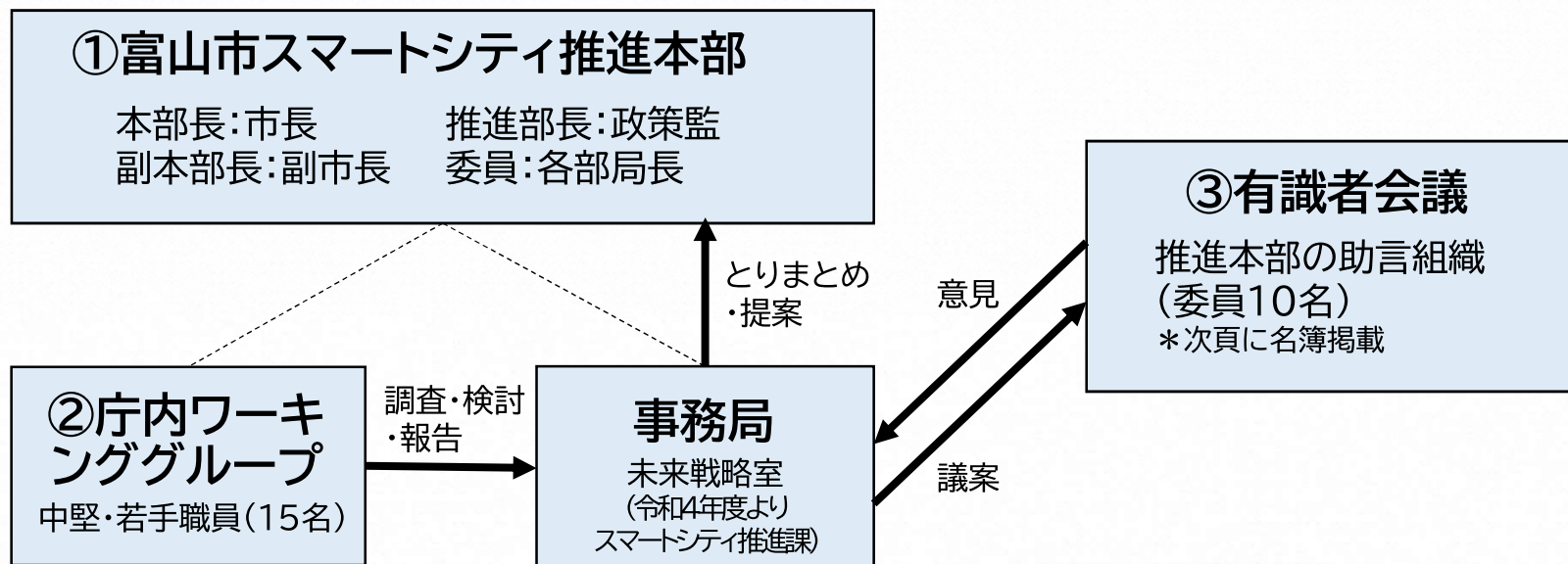
本市のスマートシティの推進に関する事項を所掌する庁内組織(本部長:市長)

②庁内ワーキンググループ

推進本部及び有識者会議に提示する議案等について調査・検討する推進本部の下部組織

③有識者会議(富山市スマートシティ推進ビジョン検討有識者会議)

スマートシティに関する専門知識や実務経験を有する者で構成する推進本部の助言組織



2. ビジョンの策定体制

有識者会議委員 ※敬称略

早稲田大学理工学術院 教授	森本 章倫
NECソリューションイノベータ株式会社 北陸支社シニアプロフェッショナル、 富山大学経済学部 教授	金山 義男
東京大学先端科学技術研究センター 教授	小泉 秀樹
株式会社笑農和 代表取締役	下村 豪徳
一般社団法人リンクデータ 代表理事、 デジタル庁 デジタル社会共通機能グループ データスペシャリスト	下山 紗代子
株式会社マスキー 代表取締役	土肥 恵里奈
コード・フォー・トヤマシティ 代表、 株式会社EvoLiNQ 代表	富成 敬之
株式会社アイパック 代表取締役	東出 悦子
富山県知事政策局 デジタル化推進室 行政デジタル化・生産性向上課長	前田 秀一
株式会社インテック 行政システム事業本部 事業推進部DX推進ディレクター	安平 剛

2. ビジョンの策定体制

「富山市版スマートシティ」を検討するための3つの方向性(推進本部会議より)

I コンパクト&スマート

コンパクトシティ政策を“深化”し、地域特性に応じた市全体の均衡ある発展を目指します。

II 市民(利用者)中心主義

サービスを提供する行政や企業の目線ではなく、サービスを利用する市民等の目線で取り組みます。

III ビジョン・課題フォーカス

ビジョンの実現や地域の課題解決という「目的」のために、「手段」としての新技术やデータを活用します。

参考 「スマートシティガイドブック」よりスマートシティの3つの基本理念

- ・市民(利用者)中心主義 (2021年4月:内閣府等)
- ・ビジョン・課題フォーカス
- ・分野間・都市間連携の重視

3. スマートシティを取り巻く状況

多方面で期待される新技術(デジタル技術、データ利用等)

<社会>安全で質の高い市民生活・都市活動の実現

- 行政手続き、購買、移動、医療、健康、観光などあらゆる都市サービスが効率化。
- 災害発生時、感染症拡大時などの非常事態におけるデータに基づく即時的な対応や、日常におけるリモート(遠隔)を含めた新しい暮らし・働きを提供。

<経済>持続的かつ創造的な都市経営・都市経済の実現

- 各種データや新技術を駆使した様々な市民、事業者向けサービスが創出、地域経済が活性化。
- 企業や行政におけるシステムの効率化等が図られるとともに生産性が向上。

<環境>環境負荷の低い都市・地域の実現

- エネルギー・資源利用が最適化され、脱炭素社会が実現。

3. スマートシティを取り巻く状況

社会情勢の変化とスマートシティへの注目

(1)社会情勢の変化

- 急速に進行する少子高齢化及び人口減少、東京一極集中と地方の衰退、社会インフラの老朽化、自然災害の激甚化、新型コロナウイルスの脅威など、さまざまな分野において、新たな社会問題への対応や解決が求められている。

(2)スマートシティへの注目

- IoT(モノのインターネット)、人工知能(AI)などの新技術やビッグデータの活用による様々なサービスが著しく進展している。
- 市民生活や経済活動などのあらゆるシーンで新技術や各種データを活用するという新たな潮流は、複雑な社会課題の解決を図る上で大きな意義や可能性を有しており、様々な課題やニーズにきめ細かく対応できる「スマートシティ」が注目されている。

(3)スマートシティの現状

- スマートシティへの注目が集まる一方、現段階では「実現した」と言える都市や地域は少なく、各地域の実情や課題によって、様々な形のスマートシティが目指されている。

3. スマートシティを取り巻く状況

国の動向

(1)「Society 5.0」実現の推進

- サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、モノやサービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供されるとともに、社会システム全体が最適化され、経済発展と社会的課題の解決を両立していける社会(Society)。

(2)地方創生

- 人口減少に歯止めをかけるとともに、東京への過度な集中の是正を図るために、地方への人や資金の流れを強化。
- 令和3年度からは「デジタル田園都市国家構想」のもと、技術実装を通じた地方活性化を推進。

(3)デジタルガバメント

- 「官民データ活用推進基本法」が公布され、都道府県では、「都道府県官民データ活用推進計画」の策定が義務付けられ、市町村に対しては「市町村官民データ活用推進計画」の策定が努力義務。
- デジタル社会の形成に関する行政事務の迅速かつ重点的な遂行を図ることを任務とする「デジタル庁」を令和3年9月に設置。

(4)脱炭素社会

- スマートシティの取組等とも連携する形で、今後5年間で少なくとも全国100か所の先行地域において2025年度までに脱炭素実現の道筋をつける。

(5)SDGsの推進

- 「SDGsアクションプラン2021」においてスマートシティの取り組み推進を位置づけ。

4. これまでの富山市の主な取組

富山市では、これまでも「センサーネットワーク」や「ライフライン共通プラットフォーム」の整備をはじめ、AIやロボット技術を活用した実証実験など、スマートシティに繋がる取組を積極的に進めてきました。

こうした取組を踏まえつつ、本市が目指すべきまちの将来像を「(仮称)富山市スマートシティ推進ビジョン」として取りまとめることで、全市一体的なスマートシティの推進体制を作り上げていきます。

(1)富山市センサーネットワーク	富山市のほぼ全域をカバーするLPWA網(低消費電力無線網)とIoTプラットフォームからなる富山市スマートシティ推進基盤を構築。各種業務に活用するとともに民間企業等にも提供し産業の活性化を図る。
(2)富山市ライフライン共通プラットフォーム	行政や電力会社等のライフライン事業者が保有するインフラ情報や、市民からの道路員傷情報などを地図上で一元的に共有化・見える化する。
(3)Toyama Smart City Square (トヤマスマートシティスクエア)	上記の富山市ライフライン共通プラットフォームにおける道路工事予定情報のほか、リアルタイムの河川水位情報、消防車両出動情報など、生活に直接関係のある最新情報を提供するサイト。
(4)行政のデジタル化	電子申請や基幹業務のクラウド移行など、自治体業務や手続き業務のデジタル化を推進。
(5)その他(個別事業)	・共創スペース「スケッチラボ」でのプログラム実施(アイデアソン、ハッカソン) ・スマートフォンアプリ「とほ活」 ・観光案内用AIチャットボット ほか

5. ビジョン検討プロセス

令和3年度（全体）

令和3年度のビジョン策定のプロセスでは、市職員や専門家、市民など多様な方々の意見や思いが反映されるよう工夫してきました。

令和4年度においても、企業ヒアリングや公募型の市民ワークショップなどを実施し、多くの方々の共感を生むビジョンの策定を進めます。

6月	3日	富山市スマートシティ推進本部会議
6～	8月	庁内ワーキンググループ（調査・検討）
11月	2日	庁内ワーキンググループ（勉強会）
11月	5日	先進地視察（会津若松市）
11月	12日	先進地視察（前橋市）
11月	26日	第1回有識者会議
12月	20日	市民ワークショップ（スケッチラボ会員）
12月	24日	庁内ワーキンググループ（ワークショップ）
1月	16日	市民ワークショップ（地域団体①）
1月	30日	市民ワークショップ（地域団体②） ※延期後3月に実施
2月	18日	第2回有識者会議
3月	28日	中間報告の公表

5. ビジョン検討プロセス

◎有識者会議(2回開催)

有識者会議では、コンパクトシティ政策にスマートシティの取組を融合させることに対する期待が示され、市民との合意形成のためのプロセスの重視や、データの利活用や見える化の重要性、デジタル人材の育成、行政の率先した変革の必要性など多岐にわたる意見交換が行われました。

(※)有識者会議の内容は別途公表。



◎庁内ワーキンググループ(随時開催)

月1回程度のミーティングや個人作業を通じ、富山市の「ありたい姿」や「地域課題」を検討するとともに、課題解決のための新技術の調査や今後10年で取り組むべき施策などについて検討しました。



5. ビジョン検討プロセス

◎市民ワークショップ(地域団体)

市内の地域ごとの団体(自治振興会、PTA、経済団体等)を対象としたワークショップを開催しました。(※)

最初に各地域のSWOT分析(強み・弱み・機会・脅威の分析)を行い、その内容に基づき、地域の「ありたい暮らし」を検討しました。その後、地域が最も大切にしたい「ありたい暮らし」を共有し、自らできることや行政と連携することを検討しました。



(※)ワークショップの内容は別途公表。

6. 富山市版スマートシティのコンセプト

コンセプトワードとありたいまちの姿

コンセプトワード ※ありたいまちの姿に基づき、令和4年度検討

ありたいまちの姿（コンパクトシティの“深化”）

※中間報告(令和3年度末)時点の整理

- [1] 誰一人取り残されることなく**便利で安心して暮らせる**まち
- [2] **地域の宝**を未来へつなぐ**地域づくり・人づくりの**まち
- [3] 互いの地域を尊重し支えあう**一体感のある持続可能な**まち

6. 富山市版スマートシティのコンセプト

ありたいまちの姿・ありたい暮らし

市民ワークショップ等での検討結果を9項目で取りまとめたもの。

ありたいまちの姿 (まちづくりの目標)	ありたい暮らし (施策テーマ)
[1] 誰一人取り残されることなく 便利で安心して暮らせるまち	① 便利な暮らし ② 安心・安全で健康な暮らし
[2] 地域の宝を未来へつなぐ 地域づくり・人づくりのまち	③ 誇れるものがある暮らし ④ 心が豊かでワクワクできる暮らし ⑤ 子どもの笑顔があふれる暮らし ⑥ 若い世代の活気に満ちた暮らし
[3] 互いの地域を尊重し支えあう 一体感のある持続可能なまち	⑦ 人と人のつながりがある暮らし ⑧ 地域の魅力を分かちあい支えあえる暮らし ⑨ 産学官民の共創が生まれる暮らし

6. 富山市版スマートシティのコンセプト

ありたいまちの姿(まちづくりの目標)

[1] 誰一人取り残されることなく便利で安心して暮らせるまち

課題	生活の利便性(特に郊外・中山間地域)
ねらい (課題解決の 方向性)	<ul style="list-style-type: none">・コンパクトシティ政策を補完しさらに発展させるため、スマート技術を有効活用する(主に郊外や中山間地などでの展開)・物理的な利便性の向上に加え、サイバー空間の活用により、「いつでも」「どこでも」を目指す
キーワード	<ul style="list-style-type: none">・コンパクトシティ政策の補完・不便を減らし、利便性を向上させる・「お団子」と「串」と「お皿」
施策テーマ	<ul style="list-style-type: none">①便利な暮らし②安心・安全で健康な暮らし
関連する取組 事例	<ul style="list-style-type: none">・移動・交通サービス・ドローン物流・遠隔診療 など

6. 富山市版スマートシティのコンセプト

ありたいまちの姿(まちづくりの目標)

[2] 地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち

課題	各地域の資源やコミュニティの将来性
ねらい (課題解決の 方向性)	<ul style="list-style-type: none">・地域の独自性を守り、未来へつなぐことで市民生活の質を向上させ、市民の「富山(この地域)で暮らしたい」へとつなげる・地域コミュニティや子どもたち、文化、自然、地場産業等を「地域の宝」と位置づけ、地域ぐるみで大切に育む
キーワード	<ul style="list-style-type: none">・地域・富山市の独自性(「この地域だからこそ」)を輝かせる・地域の誇り(シビックプライド)と地域住民の主体性・「おいしいお団子」
施策テーマ	<ul style="list-style-type: none">③誇れるものがある暮らし④心が豊かでワクワクできる暮らし⑤子どもの笑顔があふれる暮らし⑥若い世代の活気に満ちた暮らし
関連する取組事例	<ul style="list-style-type: none">・スマート農林水産業・スマートツーリズム・見守りシステム(子ども・高齢者等) など

6. 富山市版スマートシティのコンセプト

ありたいまちの姿(まちづくりの目標)

[3] 互いの地域を尊重し支えあう一体感のある持続可能なまち

課題	全市的な一体感の醸成
ねらい (課題解決の 方向性)	・広い市域に多様な地域特性を有する富山市において、各地域が相互の関係性(消費地/生産地、川上/川中/川下など)を認めあい、それぞれに市全体の持続可能性を高めるための役割を担っているという認識のもと、地域や立場を越えた共助・共創によって全市的な一体感を醸成する
キーワード	・地域資源・地域特性に応じた相互の支え合い ・地域の枠組みを越えた全市的な一体感 ・市全体の持続可能性と強靱化(レジリエンス)
施策テーマ	⑦人と人のつながりがある暮らし ⑧地域の魅力を分かちあい支えあえる暮らし ⑨産学官民の共創が生まれる暮らし
関連する取組事例	・地産地消/シェアリングエコノミー/地域通貨 ・スマート防災 ・エネルギーマネジメント など

7. スマートシティ推進のために共有したい基本的なこと(すべての関係者)

すべての関係者(市民、民間事業者、学術機関・研究機関、行政)

(1) データの利活用と意識醸成

政策(行政)、企業活動(企業)、豊かさ(市民)など様々な分野において、データによる「見える化」に取り組むことにより、意思決定の根拠や事業の進捗状況等を明確化し多様な方々の納得感を生み出すとともに、暮らしや経済における課題解決や価値の向上・創造を目指します。

また、データの収集・見える化・分析の意義についての意識を醸成します。

(2) デジタル人材を増やす／デジタル人材になる

データサイエンティストに代表される高度なデータの利活用だけでなく、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)、センサーなどのデジタル技術を業務や暮らしの中で上手に活用できる様々なデジタル人材の拡大を目指します。

(3) デジタル格差の解消／情報リテラシー(理解度)の向上

情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差(デジタルデバイド)を少なくし、安全で有意義なスマートフォンやインターネット等の使い方について、学び教え合います。

7. スマートシティ推進のために共有したい 基本的なこと(関係者ごと:産学官民)

行政(官)

- ・まずは行政が率先してデジタル化に取り組む
- ・継続的な改善とDX推進(※)
- ・データのオープン化と利活用
- ・産学官民のプラットフォーム(体制)づくり

市民・地域団体(民)

- ・日常生活で各種デジタルサービスを積極的に使ってみる
- ・データの価値への理解
- ・市や地域への関心を高める(データ等を見ても)

民間事業者(産)

- ・デジタル化による生産性向上とDX推進(※)
- ・ビジネスを通じた社会問題や地域課題の解決
- ・行政や学術機関等との共創

学術機関・研究機関(学)

- ・学生や社会人へのデジタル技術・データ活用教育
- ・公開講座を通じた地域住民の情報リテラシー(理解度)向上
- ・行政や民間事業者等との共創

(※)「デジタルトランスフォーメーション」の略。デジタル技術による革新的なサービス・業務等の改善のこと。

8. 来年度検討事項

- ・重点施策領域
- ・活用するデータ及びその収集方法
- ・各種指標の設定
- ・推進体制
- ・ロードマップ(10年後、20年後)

8. 来年度検討事項 検討にあたって考慮するポイント (主に有識者会議の委員からの提案より)

(1)多様な主体との連携

- 地域課題の解決を目指し、市民・事業者・大学・行政など多様な主体が連携
- 市民参加型の実証手法(リビングラボ)の導入
- 利用者のニーズに基づいてサービスや事業を設計

(2)合意形成・意識共有のツールとしての活用

- 定量データを、認識合わせや議論のための手段として活用
- テクノロジーを活用した市民主体の課題解決活動(シビックテック)の活性化

(3)段階的なデータ基盤の拡充

- 中長期的な視点に立ってデータの蓄積・利活用・オープンデータ化を進める
- 官民で費用分配しながらデータ基盤を整備する仕組み

(4)スモールスタート・フェイルファスト(小さく始めて素早く失敗)

- できることを即座に実行し、検証・改善を繰り返すことでニーズに合ったサービスや解決策などの新たな価値を創出

(5)デジタル人材の育成

- スマートシティを支える行政職員の育成
- 市内の学校を中心としたAI(人工知能)、データサイエンス教育
- 地域データを活用した実践的な教育機会の提供
- 企業・行政が保有する実データの教育や地域課題解決での活用

9. スケジュール

○「中間報告」(R4.3)以前

- 令和3年 6月 市推進本部設置
- 令和3年 6月 市若手・中堅職員による庁内ワーキンググループ設置
(以後、月1回程度の意見交換を実施)
- 令和3年 11月 第1回ビジョン検討有識者会議開催
- 令和4年 1月 市民ワークショップ開催(地域団体対象)
- 令和4年 2月 第2回ビジョン検討有識者会議開催
- 令和4年 3月 中間報告の公表

○「中間報告」(R4.4)以後 ※予定

- 令和4年 5月頃 市民ワークショップ開催(公募市民対象)
- 令和4年 6月頃 企業・団体へのヒアリング
- 令和4年 7月頃 第3回ビジョン検討有識者会議開催
- 令和4年度内 ビジョン本体策定

(仮称)富山市スマートシティ推進ビジョン「中間報告」

令和4年(2022年)3月

担当 富山市企画管理部 未来戦略室(令和3年度)
スマートシティ推進課(令和4年度)

TEL 076-443-2006

TOYAMA CITY